



学校教育の重点

伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども

京都市の学校教育

- 京都は1200年を超える長い歴史の中に培われた伝統と文化を大切にし、自由で先駆的な気風を育みながら、個性豊かで活力に満ちたまちを築いてきた。「まちづくりは人づくりから」と、町衆(市民)が私財を出し合い、明治2年に日本で初めて、64の地域制小学校(番組小学校)を設立したのも京都である。
- このような歴史と伝統を土台に、本市では「一人一人の子どもを徹底的に大切にすること」という理念のもと、市民ぐるみ・地域ぐるみの教育改革を推進し、大きな成果を挙げてきた。
- 社会の急速なグローバル化や情報化、価値観の多様化、技術革新が絶え間なく起こる知識基盤社会の到来など、地球規模で社会が激しく変化する今日においてこそ、そのことが強く意識されなければならない。
- 人間形成の理想を求めて、子どものよさや可能性をいかに引き出し、どのような子どもに育てるか、また、そのために学校は何をなすべきか、いつの時代にあってもこれらを追求め、実現することが学校教育の使命である。
- また、教育の根底は、「自ら主体的に学ぶ」ということである。自ら学ぶ意欲と力を持ち、学んだことを生かして、課題を克服し、現状を変えていくことができる子どもを育てるためには、教職員はもとよりすべての大人が生涯にわたり学び続け、子どもと共に育て、子どもと共に育つという姿を堅持し、個と集団、社会との関わりを重視した教育の充実、深化が求められている。
- こうした本市教育の理念や伝統のもと、教育に寄せる市民の期待と信頼に応え、教育実践を進めるために、京都市が目指す「子ども像」「教職員像」「学校像」を掲げる。

学校教育目標

「目標に向かって、進んで学び、生き生きと活動する子どもの育成」
～意欲的に、主体的に、友だちとともに～

